

災害委員会市民企画講座・支部企画

東北支部：東日本大震災からの復興の歩み — これからの地震に備える 報告

2015年11月2日（月）に、せんだいメディアテーク7階スタジオシアターにて、市民講座シンポジウム「東日本大震災からの復興の歩み—これからの地震に備える」が開催された。本シンポジウムは、東北支部・災害調査連絡会と災害委員会の共催で、東日本大震災からの復旧・復興に関する活動や状況、来るべき今後の地震に備えた防災・減災対策について、市民の皆様へ伝えることを目的としたものである。参加者は約100名であった。

シンポジウムは2部構成で、最初に前田（災害調査連絡会主査）より開催挨拶とともに趣旨説明を申し上げた。第1部では、「東日本大震災からの復旧・復興の現状」と題して、平野勝也（東北大学准教授）、増田聡（東北大学教授）、野村俊一（東北大学准教授）、中村紀吉（東京電力）、石井慶造（東北大学教授）の5名の講師から、まちづくりや経済復興に関する課題と現状、歴史的建築物の復興の現状、福島第一原発事故に対する原発の現状や福島県及び隣県における地域環境への影響に関する現状といった、一般に具体的には発信されていない復興の現状について、様々な分野の専門家から報告された。第2部では、「これからの防災・減災に対する備え」と題して、板垣直行（秋田県立大学教授）から木造建築の取り組み、三辻和弥（山形大学教授）から振動に対する地盤の被害と対策、迫田丈志（堀江建築工学研究所）から津波に対する避難ビルの整備、といった主に地震・津波に対する建築の防災対策について報告された。並びに、最終講演者の針生勝広（仙台市）からは、仙台市が取り組む防災・減災対策の詳細について紹介された。最後に源栄正人支部長からの閉会挨拶をもって終了した。

我が国は、今後数十年のうちに南海トラフ地震をはじめ大地震に見舞われることが予想されている。東北支部では、災害に対する知識・情報を発信し続け、防災・減災対策に直結できる活動を実施していく予定である。

●前田匡樹／日本建築学会東北支部 災害調査連絡会主査



開会挨拶と趣旨説明
(災害調査連絡会・前田匡樹)



閉会挨拶
(東北支部長・源栄正人)